

父の沖縄戦での戦死―家族の記録―

中島光男 壬生町

沖縄戦が摩文仁で事実上終わった一九四五年六月23日の数日前、6月18日に私の父中島利男は一兵卒として戦死しました。

当時、私は北海道札幌市の国民学校一年生でした。我家に残る父の戦死に関わる記録を書き出してみました。

310万人と言われる大東亜戦争での日本人戦没者の一人である父、その家族の記録です。

ただし、満州事変から大東亜戦争で日本軍が侵略（侵攻、進出）した中国と東南アジア諸国で亡くなった外国人将兵と民間人は、310万人の数倍になることを忘れてはなりません。

1. 改製原戸籍（抜粋） 一九五五年頃

- ◆ 本籍…北海道空知郡奈井江町字奈井江千式番地
- ◆ 戸主…中島利男（抹消）
出生 明治四拾五年七月参日
- ◆ 斉藤秀子と婚姻届出昭和拾貳年参月拾参日
札幌市長橋本正治受附入籍
- ◆ 昭和拾貳年六月拾八日時刻不詳沖繩本島島尻郡ニ於テ戦死昭和拾貳年拾貳月拾六日
札幌地方世話部長星駒太郎報告昭和拾貳年参月四日受付助役

2. 父中島利男から母秀子へのハガキ（抜粋） 一九四五・1・25

◆ ハガキ表

北海道札幌市一条東六丁目十一
中島秀子殿
沖繩県那覇郵便局気付
球一五五七六部隊（〇）隊
中島利男
20.1.25
検閲済 [印]

◆ ハガキ裏

……俺は元気だ。一月二十二日のことはラジオで聞いた。この頃新聞はよく来る有難い。然したまには便りもほしい。無理なこともないでせう。今日は以上三つの用件を頼む。
又其の内に。元気でいるように。

3. 国鉄札幌鉄道局、職歴記録（抜粋） 一九四七・1・5

中島利男
明治45年7月3日 生年月日
任免賞罰その他事項
18・9・1 90日間北部第9部隊に召集さる
20・6・18 苗穂工機部機関車職場技術を命ス
〃 退職特別金1608円ヲ支給ス

〃 沖繩本島島尾の戦場で戦死

中島利男在官中死亡三付キ
380円を支給ス（寡婦中島秀子）

4. 戦友桑原さんから母秀子への手紙（抜粋） 一九四七頃

九四七頃

……戦ふ武器とて無き十八日大隊本部の位置に生き残りが後退する事になりました。
午後六時半頃、丁度摩文仁の部落に来た時、敵の迫撃砲の集中を受け中島君は右手が切断され、これまでと思つた中島君は鬼神も泣く壮烈な自爆をとげ、南海の守りと花咲き花散りました。

其の当時は、一卷の包帯もなく少々の薬なき有様にて、我々も片手片足なくなった時は自爆と互いに話合っていました。
こうして赫々たる武勲を立て乍ら、敗戦なるが故にその功績も認められず全く大死同様にて、何とお慰めしてよきか筆舌に表す事が出来ません。……

5. 靖国神社からの合祀通知 一九五四・9・2

陸軍兵長 中島利男命
右昭和二十二年十一月十九日招魂 本殿相殿
ニ奉還 昭和二十三年五月五日本殿

正殿に鎮齊相成合祀ノ儀相濟候條此段御通知
候也
昭和二十九年二月
靖国神社宮司 筑波藤磨
遺族御中

6. 叙勲 一九六七・4・26

日本国天皇故中島利男を
勲八等に叙し白色桐葉章を贈る
昭和四十二年四月二十六日璽をおさせる
〔大日本國璽〕
昭和四十二年四月二十六日
内閣総理大臣 佐藤榮作 〔印〕
総理府賞勲局長 岩倉規夫 〔印〕



中島利男 1944年頃
(32歳くらい)

7. 奈井江町遺族親交会 終戦四十年記念誌「追憶」母秀子の投稿記事 一九七八・3・31

勲功 勲八等
官等級陸軍兵長 中島利男
明治四十五年六月十八日
死没場所 沖縄島尻郡にて戦死
遺族 続柄 妻 中島秀子
奈井江町南町三区

「追憶の記」

最後の居住地 沖縄県那覇郵便局気付 球五五七六部隊(ハ)に居まして、沖縄本島島尻郡方面に於いて、昭和二十年六月十八日戦死の公報が、昭和二十一年十二月二十六日札幌地方世話所に入り、二十二年一月四日奈井江町に通報がありました。

主人は、兵隊は甲種のくじのがれで、何の関係もなしで居りましたが、昭和十八年教育召集され、一年後、第二種補充兵に編入され、十九年に旭川に召集されました、十九年九月九州門司の神社前にて記念写真を送ってききました。

大方は戦死しましたが、生きの残った方をさがし、戦死の模様を詳しく聞きました。沖縄最後の空中戦で、200名の中隊の内、四七名が残り、ぼう空こうに入って戦っても死ぬ事になり、切込みに入ったようですが、速射砲を動かす時のかけ声が米軍にキャッチされ、迫撃砲の集中砲火を受け、主人は右手つけ根からもげてしまったそうです。

皆の申し合わせでは、手足がもげたら最後の弾で、自爆するよう申し合わせていたそう

で、(切込みの後で薬もなく、包帯もない)二時間ほど苦しんで死ぬんだそうですので、最後の弾で大きな岩の下で自爆したそうです。戦後手紙を下された方をさがして、地図を書いてもらい、沖縄に二回目に行った時戦死の場所を知りました。

召集された後、大掃除の時額縁のかけから手紙が見つかり、「此の度は帰ってくると思われなかったので、子供の事をよろしく」とのことと書いてありました。十歳を頭に、四人の子供を置かれ、札幌に居りましたが兄弟を頼り、奈井江に引越して十五日目に終戦となり、兄弟や皆様方のお世話になりながら生活し、男一人女三人の子供は欠けることなく成長しました。

これも皆様のおかげと、感謝致しております。皆結婚して出て行き、今は一人住まいで、息子は引き上げて来るようにと言われ、ありがたいと思つて居ります。

息子は昭和十三年生まれですので、主人が戦死した年よりずっと年をとり、白髪混じりの頭になりました。苦しい事、悲しい事もありましたが、皆忘れ、楽しい毎日を送らせていただいております。

子供の小さい時は、みじめな生活をさせたと、今もすまないという気持で一杯ですが、子供等は親思いの子になった事を、嬉しいと思つて居ります。

思いのまま追憶といたします。

「沖繩戦」多大な犠牲 （133ページ）

……この作戦に参加した米軍は、上陸部隊十八万三千人、支援の海軍部隊を含めると約五十五万人の規模で、太平洋戦争史上、最大の上陸作戦だった。

沖繩本島の日本の正規軍は、陸軍約八万六千人、海軍の陸戦部隊約一万人に過ぎなかった。……

六月四日ごろまでに、第三十二軍は、喜屋武の摩文仁の新陣地に集結したが、撤退作戦は悲惨を極めた。大本営陸軍部の指示で、将兵、県民を問わず、重症者には、自決用の手投げ弾や青酸カリ入りのミルクが配られた。……

沖繩戦は、牛島司令官、長参謀長が自決し、六月二十三日、事実上終わった。

戦死者は日本兵九万四千百三十六人、県民は約九万四千人だった。

二〇一三年8月、中学校の同期会を機会に2年ぶりに北海道に帰り、岩見沢市にあるカトリック墓地の父母の墓にお参りしました。

墓碑に刻まれた文字から、改めて父は若くして亡くなったのだと実感しました。一九九四年に亡くなった母の名前も刻まれています。父母の命は、私と姉妹、その子供、孫に繋がっています。

札幌市では、私が洗礼を受けたカトリック北一条教会も訪ねました。母が生前、教会から私の洗礼証明書を送っていただきました。ラテン語の定型フォームで書かれています。

最後に、若者が戦争で死ぬ事のない日本であることを、心から願っています。